

東海防衛だより

2018年冬号



東海防衛支局の取組等／東海3県の自衛隊の動き

- ◆ 平成30年版防衛白書について
- ◆ 平成30年度東海防衛セミナーの開催
- ◆ 自衛隊行事における「政策広報活動」について
- ◆ 自衛隊記念行事と地元との交流
- ◆ 北海道胆振東部地震に小牧基地から災害派遣
- ◆ インドネシア共和国における国際緊急援助活動
- ◆ 12式地对艦誘導弾の発射試験の監督を終えて
- ◆ 東海防衛支局建設部門のあゆみ

東海3県の防衛産業・技術基盤

- ◆ 防衛の一端を担う高度な技術
(日本トレクス株式会社)

平成30年版防衛白書について

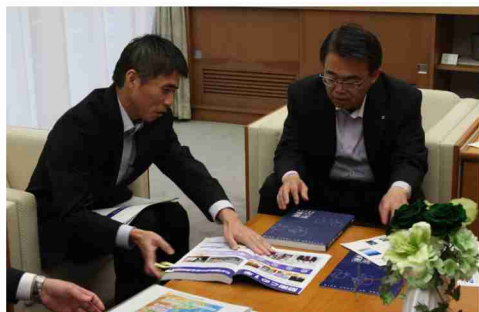
防衛白書の概要

平成30年度防衛白書が8月28日、閣議で了解されました。防衛白書は、我が国の防衛政策への理解の促進を図るため、昨年の刊行から概ね一年間に発生した事象や新たな政策などを中心に記述され毎年夏頃に刊行しております。

今年の防衛白書は、核・ミサイル開発の動向を含む北朝鮮情勢や中国・ロシアによる我が国周辺での活動、宇宙・サイバー空間を巡る現状など、我が国を取り巻く安全保障環境について記述しています。また、防衛計画の大綱の見直しに係る検討の方向性、日米同盟強化の取組、自衛隊の各種活動、諸外国との防衛協力・交流などについても分かりやすく紹介しています。

当支局は、平成30年9月から11月までの間、愛知県、岐阜県及び三重県をはじめ、東海3県内の約50市町村等を訪問し、地方協力本部や地元部隊と共に防衛白書の説明を行ってきたところです。

なお、防衛白書は一般の書店で販売されるほか、防衛省のホームページ (<http://www.mod.go.jp>) にも電子版が掲載されていますので是非ご覧ください。



大村愛知県知事



鈴木三重県知事

平成30年度東海防衛セミナーの開催



平成30年11月7日、東海防衛支局は、各務原市の後援をいただき、各務原市産業文化センターあすかホール（岐阜県各務原市）において、「日本の安全・安心を考える」をテーマに平成30年度東海防衛セミナーを開催し、大変多くの方々に御来場いただきました。

森東海防衛支局長の挨拶にはじまり、続いて浅野各務原市長から御挨拶をいただいた後、第1部では防衛省大臣官房の倉内審議官が「我が国を取り巻く安全保障環境」と題して、中国、北朝鮮をはじめとする諸外国の軍事力や最近の動向、我が国の特性などについて講演しました。詳細な資料を用いた丁寧な説明に、参加者からは「我が国を取り巻く安全保障環境が非常に厳しいことを認識した」「防衛力整備の重要性を実感した」などの感想が多く寄せられました。

第2部では、航空自衛隊岐阜基地の平元基地司令が「航空自衛隊の概要」と題して、岐阜基地の歴史や現在の安全保障環境下における航空防衛力の意義や方向性について講演しました。豊富な資料や貴重な写真を用い、時にユーモアを交えた司令の講演は「分かりやすい説明で航空自衛隊の現況がよく理解できた」「お話が楽しく興味深かった」など大変好評でした。



平元司令による講演



倉内審議官による講演

自衛隊行事における「政策広報活動」について

防衛省・自衛隊の活動は、国民一人ひとりの理解と支持があつて初めて成り立つものです。このため、分かりやすい広報活動を積極的に行い、国民の信頼と協力を得ていくことが重要です。東海防衛支局では、自衛隊の記念行事などを通じて、防衛省の政策や自衛隊の活動などを説明したパンフレットや青少年を対象とした『まんがで読む防衛白書』などの配布、広報ビデオの上映など、自衛隊や防衛に関する正確な情報をより広く提供するよう努めています。



防衛省・自衛隊の活動を説明



政策広報ビデオの上映

自衛隊の記念行事と地元との交流

明野駐屯地

平成30年11月4日、三重県伊勢市にある明野駐屯地において、駐屯地開設63周年、航空学校創立66周年の記念行事が開催され、約2万人の来場者で賑わいました。



航空学校長兼 明野駐屯地司令 服部正陸将補
参議院議員 佐藤正久
伊勢市副市長 藤本亨氏
外務副大臣

来賓とともに着席する航空学校長



訓練展示

岐阜基地

平成30年11月18日、岐阜県各務原市にある岐阜基地において、2018岐阜基地航空祭が開催され、約15万人の来場者で賑わいました。



航空祭を楽しむ来場者



華麗なブルーインパルスの飛行

北海道胆振東部地震に小牧基地から災害派遣

航空自衛隊小牧基地の第1輸送航空隊は、平成30年9月6日に発生した北海道胆振東部地震に伴い災害派遣活動を実施しました。地震発生の知らせとともに、航空機を飛ばさせるための準備を開始し、C-130H輸送機を物資輸送及び人員輸送の拠点となった入間基地へ展開させました。

9月6日午後から、経済産業省、消防庁の職員及び警察官並びに車両2台を搭載し千歳空港まで輸送しました。9月7日、入間・千歳基地間を3回往復し、飲料水やカップメン、隊員等11名及び警察官36名を輸送しました。9月10日、11日においても、糧食等を約20t輸送しました。千歳空港に到着後は、陸上自衛隊が支援物資を避難所に届けました。



糧食等の搭載



経済産業省の職員等の輸送

インドネシア共和国における国際緊急援助活動

平成30年9月28日、日本時間19時2分に発生したインドネシア共和国、スラウェシ島北西部付近におけるマグニチュード7.5の大地震に対する国際緊急援助活動として、10月3日20時54分、航空自衛隊小牧基地の第1輸送航空隊は、太田1佐を指揮官としてC-130H輸送機1機を現地に向けて出発させました。国際緊急援助活動として、被災地への支援物資の輸送や被災民の輸送など行いました。

10月27日、無事に国際緊急援助活動の任務を終了し隊員全員元気に帰隊しました。



国際緊急援助活動の任務終了



支援物資の輸送

1 2式地对艦誘導弾の発射試験の監督を終えて

平成28年度に防衛装備庁と三菱重工株式会社(以下「MHI」という。)との間で締結された1 2式地对艦誘導弾(以下「1 2SSM」という。)の発射試験が、平成30年7月29日から同年9月9日の間、アメリカ合衆国(以下「米国」という。)カリフォルニア州米海軍ポイントマグー射場において実施されました。当支局の監督官1名が米国において本発射試験の監督を行いましたので、その活動について紹介します。

1 2SSMとはどのような装備品なのでしょう。

1 2SSMは、88式地对艦誘導弾(以下「SSM-1」という。)の後継として、陸上自衛隊の方面特科隊に配備し、対上陸戦闘に際して、洋上の艦船などを撃破する国産の対艦誘導弾です。

1 2SSMは、SSM-1に対して、射撃効率、残存性といった点で能力向上が図られており、平成24年度から装備化が開始されています。

昨年においては、南西地域の防衛態勢の強化のため、自衛隊配備の空白地域となっている島嶼(とうしょ)部へ地对艦誘導部隊を配置するなど重要視されています。

また、この1 2SSMは、平成30年6月から8月に米国で実施された米国主催の環太平洋合同演習「リムバック2018」にも参加しています。

2 発射試験はなぜ必要なのでしょう。

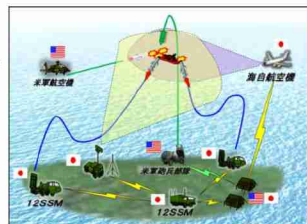
誘導弾の特徴として、構造が複雑で製造に期間を要すること、価格が高額であるなどが挙げられます。そのため、計画的に製造する最初の誘導弾を試験用誘導弾(以下「供試弾」という。)として、発射試験を行うことで是正事項が必要か否かを判断することができ、不要な作業や費用をかけることがないようになっています。

この発射試験は、納入される誘導弾の品質保証を行う際に非常に重要な試験であり、納入弾の品質に直結する大切なものです。

誘導弾(諸元)
全長:約5.0m 直径:約3.5cm
重量:700kg(防衛白書より引用)



1 2式地对艦誘導弾
(出典:陸上自衛隊HP)



日米共同対艦戦闘訓練(イメージ)
(出典:我が国の防衛と予算-平成30年度予算の概要-)

3 東海防衛支局が行う監督はどのようなことをするのでしょうか。

監督は、契約履行過程において、適正に契約内容を実行させ品質を確保させるとともに、必要な立会、工程管理、材料・部品等の審査又は試験、細部設計書の審査・承認等の方法により、検査では確認できない部分について、契約物品に対する要求事項が確実に具現化されるように要時要点に対し確認を行う業務です。

1 2SSMの監督では、契約相手方であるMHIの名古屋誘導推進システム製作所において、各種器材等に精通している当支局の監督官が、仕様書の要求事項を満足しているか確認するために監督を行っています。

しかしながら、発射試験は国内では実施できないことから米国に監督官を派遣して実施しています。現地における監督は、次の事項について事前に確認して確認します。

- ① 供試弾の構成品毎の組立てについて、事前に確認した作業手順どおりに行われているか。
- ② 発射指令により発射された供試弾が目標となる位置を通過するまでの行程において、規定どおりに動作しているか。

4 発射試験の監督を終えての監督官所感

今回の1 2SSM発射試験は、当支局としても、米国への3回目となる監督官派遣でした。米国での1 2SSM発射試験の期間中は天候に恵まれましたが、海上における波浪状況や、計画以外での射場の予定が優先され、試験で借用した施設の使用可能時間も制約を受け、試験ができない日等の面で苦労もありましたが、無事に監督を務めることができました。また、監督官としてこの派遣で貴重な経験と多くの教訓を得ることができました。

業務の結果は納入品の性能に直結することから、契約の適正な履行、ひいては我が国の防衛力確保の観点から極めて意義深い活動でした。特に発射試験では、支援いただいた陸上自衛隊との信頼関係も強化されるとともに運用の幅や知識の奥深さを広げる好機となりました。日本を取りまく厳しい安全保障においても、緊密な連携のもとで、国民の負担に応えられるよう、今回の監督業務での経験を生かし、さらなる装備品の品質管理に努めてまいります。(監督官:柳田1等空尉)



契約から納入までの流れ



任務完了後の集合写真

東海防衛支局建設部門のあゆみ

～ 12月1日より、建設業務が近畿中部防衛局に一元化されます。～

各地方防衛局調達部においては、防衛力を発揮させるため、様々な防衛施設の建設等を行っています。近年の自衛隊施設等の整備のニーズにあわせ、全国の地方防衛局調達部の機能強化、最適化を図るため、今般、各地方防衛局調達部において組織改編が行われることとなり、これに伴い、東海防衛支局においては、管轄する区域の防衛施設の建設工事に関する業務を近畿中部防衛局に一元化することになります。本稿では、これまでの東海防衛支局の建設部門の歴史を振り返ります。

年月	昭和												主要事項
	25年 8月	27年 5月	29年 7月	34年 8月	37年 10月	39年 3月	40年 2月	45年 1月	49年 2月	52年 3月	60年 11月	62年 5月	
	警察予備隊発足	警察予備隊建設部発足	警察予備隊第3地方建設部(本部、兵庫県伊丹市)	保安庁設置 保安隊第3地方建設部	防衛庁設置 防衛庁建設本部	防衛庁建設本部 大阪建設部	防衛庁建設本部 名古屋建設部	防衛施設庁発足 防衛施設庁 名古屋防衛施設局建設部	防衛施設庁 名古屋防衛施設支局	管轄変更(愛知、岐阜、三重の3県)			

航空自衛隊

小松飛行場防音壁

(石川県小松市)

基地周辺に対する騒音対策として、防音堤盛り土約2,200m実施。自衛隊施設にこの種の工法を採用したのは初めて。

陸上自衛隊日野射撃場(岐阜県岐阜市)

近年の射撃場周辺の市街化、住宅の増加などの環境変化に鑑み、近隣への影響低減を目的として射撃場の覆道化とともに、小火器射撃評価システムを導入し、新たな射撃場を新設。環境面に配慮しつつ、移設可能な構造として、PCaPC(プレキャスト・プレストレスト・コンクリート)による組立構造を採用。主要構造物の全てをPCaPC構造で建設した建物は、自衛隊施設としては初めてであり、民間工事も本射撃場ほどの規模のものはあまり実施例はない。



覆道射撃場(日野)

航空自衛隊小牧基地管制塔(県営名古屋空港)

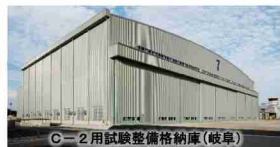
県営名古屋空港における管制業務は、平成17年2月17日の中部国際空港開港に伴い、国土交通省から委託を受け、旧来の管制塔を有償で使用し、防衛省(空自小牧基地)が実施。本管制塔は県営名古屋空港側から基地側に移動し、管制業務効率化と一層の航空安全を図ったもの。

航空自衛隊岐阜基地

次期輸送機用試験整備格納庫

(岐阜県各務原市)

次期輸送機の部族配置に先立ち、飛行試験を行うための整備や必要な試験を行う施設で、建物規模は、床面積が、格納庫部分6,000㎡、事務室等部分3,700㎡の岐阜基地内最大級の空間を有する建築物。



C-2用試験整備格納庫(岐阜)

平成											
17年 3月	18年 11月	18年 12月	19年 1月	19年 7月	19年 9月	23年 3月	24年 3月	24年 10月	26年 12月	26年 12月	26年 12月
空自岐阜基地試験場新設	空自岐阜基地試験場新設	空自岐阜基地試験整備格納庫新設	空自岐阜基地試験整備格納庫新設	空自岐阜基地試験整備格納庫新設	空自岐阜基地試験整備格納庫新設	空自岐阜基地試験整備格納庫新設	空自岐阜基地試験整備格納庫新設	空自岐阜基地試験整備格納庫新設	空自岐阜基地試験整備格納庫新設	空自岐阜基地試験整備格納庫新設	空自岐阜基地試験整備格納庫新設

東海防衛支局の建設部門は、建設者に委託して実施してきた警察予備隊の建設工事を逐次直轄工事に切り替えていくために、昭和27年5月に発足した警察予備隊建設部の警察予備隊第3地方建設部を源流としています。昭和34年4月の組織改編により、防衛庁名古屋建設部(総務課、管財課、計画課、建築課、土木課、設備課)になり、愛知、岐阜、三重、静岡、石川、福井の6県を管轄することとなりました。その後昭和37年11月の調達庁と防衛庁建設部の統合による防衛施設庁発足に伴い、名古屋防衛施設局建設部になりました。昭和60年11月には、大阪防衛施設局との統合により名古屋防衛施設支局に、昭和62年5月には、愛知、岐阜、三重の3県を管轄するようになり、平成19年1月の防衛庁から防衛省の移行に伴い、同年9月に東海防衛支局となりました。東海防衛支局の建設部門は、上記年表記載事項以外にも様々な防衛施設の建設工事に携わってまいりました。今後、東海3県における自衛隊施設の建設工事は、近畿中部防衛局調達部が担っていくこととなります。



建設部門の職員一同

防衛の一端を担う高度な技術

日本トレクス株式会社

東海防衛支局では、防衛省・自衛隊が使用する装備品の調達にあたり、製造工程での審査や、最終的な完成検査を行っています。そこで、このコーナーでは我が国の防衛力の基盤となる製造会社の技術力を紹介します。

1 「運ぶ」を支えたものづくり

日本トレクス株式会社は、愛知県の東部に位置する愛知県豊川市伊奈町で、昭和39年8月、日本トレールモービル株式会社として創業され、平成8年7月に、輸送全般の更なる事業の発展を目指し、現社名に変更しています。

創業当初は、昔ながらの小・中型トラックなどを生産していましたが、昭和40年の名神高速道路、昭和44年の東名高速道路の全線開通に伴い、物流の高速大量輸送による合理化並びに輸送機器の軽量化の動きに伴って大型化が図られたウイングボディタイプトレーラ、トレーラ、コンテナの生産を開始するなど社会のニーズに合わせた製品の設計、製造及び販売を行っています。



日本トレクス株式会社



ウイングボディタイプ
トレーラ

2 自衛隊で活躍するトレーラ・シェルタ

防衛省に初めて納入されたのは、防衛庁（当時）からの要求に基づき、昭和44年に生産を開始し、昭和45年から量産化した1トン水タンクトレーラになります。以後、トレーラの製造技術を活用し、1トントレーラなどを生産し、また、コンテナの製造技術を活用し、野外医療用シェルタなどが陸・海・空自衛隊に納入されています。

1トントレーラは、昭和46年から納入が始まり、演習などの際に演習場で使用する資材や器材などを運搬する時に使用しています。野外医療用シェルタは、大型トラックに搭載され、野外手術システムの一部として移動が容易な手術用シェルタとして使用されています。民間のコンテナと比較し、左右の壁を拡張することにより約2倍の面積を確保することができます。これらのトレーラ・シェルタは災害派遣の際に、大いに活躍しています。



1トントレーラ



野外医療用シェルタ

3 1トン水タンクトレーラ

1トン水タンクトレーラは、駐屯地外における演習などの部隊活動で水を運搬する際に使用され、自衛隊が保有する車両で牽引できるようになっています。

車体前面左右にはそれぞれ3か所ずつ合計6か所の蛇口が備え付けられています。東日本大震災を始め、多くの災害現場において、水源地や大型の水タンク車から水を給水した後、避難場所や給水場所などに、速やかに水を届けることができ、自衛隊による給水支援の現場で大活躍しています。



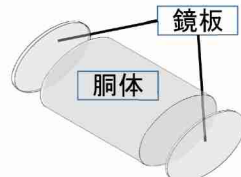
1トン水タンクトレーラ概要
全長：3.7メートル
全幅：2.0メートル
最大搭載量：1,000リットル

給水支援の様子
(出典：陸上自衛隊HP)

4 防衛の一端を担う高度な技術

(1) 1トン水タンクトレーラの溶接技術

水タンクは、1枚のステンレス板を丸め、楕円形の胴体を造りあげた後、水タンクの蓋となる鏡板とTIG(Tungsten Inert Gas (ティグ)) 溶接技術で溶接しています。TIG溶接は、電極棒にタングステンを使用する電氣を用いたアーク溶接の一種であり、気密性が重要な箇所で使用され、品質管理が求められる製品の製造に使用されることが多い溶接技術です。水タンクは、給水後、水が漏れることが無いよう品質要求されており、日本トレクスでは溶接品質の確実な確保のため熟練の溶接技術者の手作業により製造されています。



水タンク製作のイメージ図



1枚のステンレス板を丸める作業



TIG溶接作業



水タンクの溶接後

(2) 1トン水タンクトレーラの塗装技術

水タンクトレーラは駐屯地外での給水活動に使用されます。タンク外面については、錆を発生させないため、ステンレス下地の表面を綺麗にし、耐腐食のためにリン酸塩皮膜を塗った後、陸上自衛隊の標準色であるOD（オリーブドラブ）色で、2度塗装します。OD色の調合、塗装中の塗装ムラなどを発生させないため、塗装技術に習熟した熟練職人が手作業で行っています。



耐腐食リン酸塩皮膜の塗装後



OD色を塗装中の水タンク

地本だより

自衛隊地方協力本部（地本）は、自衛隊を志す方やご協力・ご支援を頂ける皆様への窓口です。

<p>愛知地方協力本部 (電話) 052-331-6266 http://www.mod.go.jp/pco/aichi/</p> 	<p>● 自衛隊広報ルームイベントのお知らせ 時 期：12月22日(土)～24日(月・祝) 場 所：名古屋市中村区梧町21-2 第3太閤ビル1階 内 容：自衛隊カレンダープレゼント、現役女性自衛官によるサクソ演奏によるクリスマスミニコンサート(23日、24日)</p>
<p>岐阜地方協力本部 (電話) 058-232-3127 http://www.mod.go.jp/pco/gifu/</p> 	<p>● 防衛省自衛隊広報センター「自衛館」 今夏に「自衛館」をリニューアルしました。自衛隊のパネルや「親子プラモデル教室」で作成されたプラモデル、装備品の模型などを展示している楽しいスポットです。ぜひ遊びに来てください♪</p>
<p>三重地方協力本部 (電話) 059-225-0531 http://www.mod.go.jp/pco/mie/</p> 	<p>● 各種イベントや自衛隊に関する情報を紹介しています！ 各種SNS (Twitter、Facebook、Instagram)も随時更新中！ 詳しくはHPでお待ちしています。</p> 

自衛官等募集案内

募集種目	応募資格	受付期間	試験期日	合格発表	入隊時期
自衛官候補生	18歳以上 33歳未満 の者	年間を通じて行っています。	受付時にお知らせします。	合格発表は試験日にお知らせします。	31年3月下旬 ～ 31年4月上旬

※ 応募資格が変更されております。詳しい内容は、各自衛隊地方協力本部にご確認下さい。

トピックス ～第10回日ASEAN防衛当局次官級会合の開催～ (アジア太平洋地域における共通の安全保障課題に関する防衛当局高級事務レベル会合)

日ASEAN間の次官級の人脈構築を通じた二国間・多国間の関係強化を図るため、平成21年より毎年、防衛省の主催により本会合を開催しています。

本年9月、名古屋において、第10回会合が開催され、ASEAN加盟国(全10か国)及びASEAN事務局の次官級等が参加し、①「『法の支配』を中心とする普遍的価値の共有に向けた課題と取組」、②「災害対処の課題と対策」、③「日ASEAN防衛協力の展望」の3つのテーマについて意見交換が行われました。

また、大野防衛大臣政務官(当時)の歓迎の挨拶に続き、マレーシアのモハド・ビン・サブ国防大臣による「マハティール新政権の防衛協力」をテーマに特別講演が行われました。



モハド・ビン・サブ国防大臣



日ASEAN防衛当局次官級会合



大野防衛大臣政務官(当時)

